

### 1.3.3 Introduction and description of LAEME

*LAEME*とそのタグ付けられたテキストは 2008 年からインターネットで利用可能になった。簡単な導入は以下の通りだが、この計画のより完全な説明は Laing (1994, 1995, 2008)を参照のこと。

*LAEME*はイングランド全土の 1150 年から 1325 年を扱っている。したがって、12 世紀初期の証拠は非常に少なく、1300 年から 1350 年の間はほとんど存在しないが、*LAEME*と *LALME*が共同して中英語期全体をほぼ扱っている。しかし、現存する初期中英語の資料は、イングランド全体に平等に分布していない。写本は中部南西地域と中部南東地域に比較的多く、中部中央地域と南部は少なく、北部と中部北方はほとんどない。*LAEME*は文学、法律、行政に関する写本を含んでいるが、ラテン語が当時の公的記録の言語だったため、文書資料は乏しい。このことはいわゆる「アンカーテキスト」を確定する作業を困難にしている (1.3.1 で述べた通り)。*LALME*では、そのようなアンカーテキストは法的資料や行政資料に多く見られる。初期中英語のそのようなデータの不足は、同時期の文学写本が場所を特定することを可能にする非言語的証拠をしばしば含んでいることによって、部分的に解消されている。そのような不確かな場所の特定は、明らかに *LALME*に見られる後に場所を特定された資料に対して検証する必要がある。

*LALME*が決まった数の項目での LP から成るのに対し、*LAEME*はすべて原文か複写から書き写されたテキスト全体を含んでいる。各語はそれぞれ語彙・文法情報が付加されている。この方法は記録された項目の数を大きく増やしており、いかなる形態の原文の文脈も利用可能にしている。したがって、音韻論は異綴りが起こる正書法体系の詳細な分析の後に推察されるかもしれないが、*LAEME*のコーパスは歴史方言学や音韻論の分野における研究に非常に適している。

中英語のテキストはタグ付けされたテキストのコーパスに加えられ続けているため、本書に見られる *LAEME*からの引用は筆者が体系的に資料を集め始めたときにアクセスしたものを表しており、したがって現在オンラインで利用できるいくつかのテキストを除いている。それらのテキストは全体を利用できるため、正書法の体系における異綴りを検討することが可能である。しかし、この規模の研究では、すべての体系を調べることは不可能であるが、このような方法が個々の綴りの解釈にどのような違いを生むかを見るために、実例としていくつかの体系を調査する。そのような調査がモデルとしての役割を果たし、本書で集められた綴りになされ得ることの典型を示すかもしれない。

*LAEME*の資料は、音韻論の区分(あるいは「語彙集合」cf. Wells 1982: 127-68)を速く、簡単に調べることができる音韻論的な基準によって編成されていない。ある語彙集合に属する語のリストはタグの付いた辞書でそれぞれの関連した項目に印を付け、印を付けた項目のすべての原文の異綴りのリストを作ることで作成される。あるいは、(テキストによって配列された)変種の綴りのみを取り出される。それらのテキストは (National Grid references の形式において)年代と場所を指定しているので、異綴りの年代と出所を特定することが可能である。したがって、これらの綴りの発生の年代順配列と起こりうる広がりもまた決定されるかもしれない。

一般に、*LAEME*に見られる異綴りのみが本表に複写されている。それらは英語の歴史音韻論の伝統的な分類によって分類されており、どのテキストにその形態が現れるかが示されている。したがって、各綴りを所属する体系の観点からすべての資料を各テキストと比較することによって評価することが可能である。すべての綴りは古英語の *ā*、*œ*、*ū*、*y*を持つ非常に多くの項目から集められている。これらの綴りは集計され、テキストが年代順に配列された表において、二次的あるいは少数派の形態に対して優勢な形態が各テキストで示されている。これは、(a)古英語の *y* の中英語の綴りと音声学的対応、(b)古英語の *ā* の初期中英語の後舌化と円唇化、(c)初期中英語の *ū* に対する <ou>/<ow>か <u>の使用、(d)古英語の *œ* に対応する中英語の綴りを描く試みの中で行われている。*LAEME*からの資料のリストは意図的に網羅しているが、不注意に見落とされた項目も確かに存在する。

ここまで *LAEME*の資料が貴重であることを示してきた。*LAEME*の資料が一般に従来は入手できなかったことと、現在言語的、方言的基礎に基づいて編成されていることは、体系的に調査されていることの重要性を加えている。さらに、Stockwell と Minkova の初期母音推移仮説を考慮すると、初期中英語からの証拠は、英語の地域方言において様々な長母音変化が始まった年代を決定する上で非常に重要である。